

政策整理番号 3

評価シート(A)

対象年度	H17	作成部課室	保健福祉部子ども家庭課	関係部課室	保健福祉部子育て支援室, 地域福祉課, 産業経済部労政・雇用対策課, 環境生活部青少年課
------	-----	-------	-------------	-------	--

A-1-1 政策と施策の関係・施策の体系:規則 § 6 1号関連

政策番号	1 - 1 - 3	政策名	子どもを安心して生み育てることができる環境づくり
------	-----------	-----	--------------------------

政策概要	核家族化、少子化の進行など子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、安心して子どもを生み育てることができ、すべての子どもがその個性を尊重され健やかに成長できる環境づくりを目指します。
------	---

施策番号	施策名 施策概要	政策評価指標	達成度
1	安心して妊娠・出産ができる母子保健の充実 母体の変化の著しい妊娠、出産期において、母親の心身の健康を保ち、安心して妊娠・出産ができる環境をつくり、また、生まれた子が健やかに成長、発達できるような支援体制をつくります。		
2	出産や子育てのしやすい労働環境の整備 働いている人が出産や育児を行うときの負担を軽減し、子どもを育てている労働者の雇用の継続や再就職が円滑にできるような仕組みの充実を目指します。		
3	多様な保育サービスの充実 子どもを安心して生み育てるためには、出産後も働き続けられる環境等の整備が重要であることから、多様化する地域の保育ニーズに応じたサービスの充実を目指します。	保育所入所待機児童数	C
4	子育て家庭の経済的な負担の軽減 子どもを持った人が安心して子どもを育て、そして生活できるよう、子どもを育てていくことによって生じる経済的な負担を軽減します。		
5	子ども連れでも安心して活動できるまちづくり 子どもを連れていても、安心して気軽に買い物等ができるまちづくりを目指します。		
6	子どもと家庭を支える相談・支援体制の充実 子どもの虐待や不登校、育児不安など、子どもに関する問題が深刻化していることから、すべての子どもが健やかに成長できるよう、子どもと家庭を総合的に支援、育成する相談・支援体制の充実を図ります。	児童相談所における児童虐待相談の相談率	A
7	青少年の健全育成 青少年を取り巻く有害環境の浄化や非行防止の啓発に努めるとともに、県内各地で健全育成に関する講演会や少年の主張大会等を開催し、健全育成運動の普及・定着を図ります。	引きこもり支援機関の設置数	A
		青少年育成市区町村民会議の設置率	...

達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できないため判定不能)

A-1-2 県民満足度(政策)の推移:規則 § 6 1号関連

	第5回(H17)	参考:第1~4回の推移	第4回(H16)	第3回(H15)	第2回(H14)	第1回(H13)
重視度(中央値、点) A	80.0	重視度 A	80	80	80	80
満足度(中央値、点) B	50.0	満足度 B	60	60	60	60
かい離 A-B 【かい離度】	30.0 【非常に高い】	かい離 A-B 【かい離度】	20 【高い】	20 【高い】	20 【高い】	20 【高い】
満足度60点以上の回答者割合(%)	39.6	満足度60点以上の回答者割合	53.4	50.8	52.7	-

かい離:極めて高い(40点以上), 非常に高い(30点以上~40点未満), 高い(20点以上~30点未満), 中(10点以上~20点未満), 低い(10点未満)

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第1~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

A-1 施策群設定の妥当性:規則 § 6 1号

適切

概ね適切

課題有

A-1-1 【政策目的に沿った施策か】 適切 ・各施策の概要は上記記載のとおりであり、政策を実現するため7施策すべてが必要と認められる。 ・「新みやぎ子どもの幸福計画」(宮城県次世代育成支援行動計画)に対応し、少子化の流れを変え、次世代を健全な育成を図るためにはこれらの施策を総合的に実施していくことが必要である。 【施策の重複・矛盾点の有無】 適切 ・施策の重複・矛盾点は特になし。
A-1-2, A-1-3 【県民満足度・社会経済情勢から見て必要か】 適切 ・県民満足度調査によれば、政策全体の重視度は80と高い値を示しており、必要性は高いものと思われる。各施策においても、概ね必要性は高いものとされている。 ・本県の合計特殊出生率は平成17年は1.19と、全国値1.25を下回る過去最低のものとなっており、人口維持水準2.08に遠く及ばない危機的な状況にある。また、児童虐待等子どもを巡る様々な問題が発生しており、これまで以上の対応を強く求められている。

A - 1 - 3 一般県民満足度の推移と社会経済情勢(施策毎):規則 § 6 1号関連

施策番号	一般県民満足度調査結果(施策)			社会経済情勢に適合した施策か	必要性総括	
	優先度(直近の3回)	県民が必要と感じているか()				
1	第5回 7.8%	4位	・本施策の優先度は 7施策中 4位である。 ・本施策のかい離は 25.0点と 高い。 【結論】必要性: 比較的感じていない	・少子化が急速に進展する中で、次代を担う子どもたちを安心して生み育てられる環境や生まれた子が健やかに成長、発達できるような支援体制の整備は、少子化対策のもっとも基本的なものであり、組織的・重点的に取り組む必要がある。 ・総務省「平成14年度就業構造基本調査」によると、県内女性雇用者数は全雇用者数の4割を超えているが、30歳代に雇用率が減少する。これは出産育児期の退職によるとされる。急速な少子化への対応としても、労働者の子育ての負担感を軽減する必要がある。 ・核家族化の進行、女性の就労機会の増大により、保育所入所希望児童数は年々増加している。仕事と子育ての両立を可能にする保育サービスの充実は、子どもを安心して生み育てるための環境づくりとして、特に若い世代のために必要な施策である。 ・少子化の状況は非常に深刻であるが、その原因として子育てによる経済的負担感の増大が指摘されており、子育てで家庭の経済的な負担の軽減を図ることが必要である。県民満足度調査においても施策の優先度が第一位となっていることは、そのことを示すものである。 ・核家族化や女性の就労機会の増加によって、家族の状況は変化している。 ・子ども連れの親たちをはじめ、だれもが安心して外出でき、暮らしやすいバリアフリー環境整備のための施策として、引き続き取り組む必要がある。 ・相談体制を順次強化してきたこと等により、優先度は他の施策より低くなっているが、児童虐待や不登校問題をはじめとする子どもを取り巻く問題は一層深刻となっており、相談件数も増加していることから、量・質ともに今以上の取組みが求められている。 ・家庭や社会の変容に伴わない子どもの多様な体験や交流の機会が不足している、情報化により有害情報への接触が容易になった、或いは大人の価値観が揺らいでいること等を反映し、青少年の非行が深刻化している。 ・こうした状況に対応するため、地域・家庭・学校が連携し青少年育成施策を積極的に展開する必要がある。	大	
	第4回 10.5%	4位				
	第3回 8.0%	5位				
2	29.4%	2位	・本施策の優先度は 7施策中 2位である。 ・本施策のかい離は 30.0点と 非常に高い。 【結論】必要性: 非常に感じている			大
	26.3%	2位				
	31.1%	1位				
3	6.3%	5位	・本施策の優先度は 7施策中 5位である。 ・本施策のかい離は 35.0点と 非常に高い。 【結論】必要性: ある程度感じている			
	7.8%	6位				
	8.0%	5位				
4	35.1%	1位	・本施策の優先度は 7施策中 1位である。 ・本施策のかい離は 30.0点と 非常に高い。 【結論】必要性: 非常に感じている	大		
	27.6%	1位				
	23.2%	2位				
5	5.9%	6位	・本施策の優先度は 7施策中 6位である。 ・本施策のかい離は 20.0点と 高い。 【結論】必要性: あまり感じていない		中	
	5.3%	7位				
	6.4%	7位				
6	5.7%	7位	・本施策の優先度は 7施策中 7位である。 ・本施策のかい離は 30.0点と 非常に高い。 【結論】必要性: ある程度感じている			大
	8.1%	5位				
	9.4%	4位				
7	8.1%	3位	・本施策の優先度は 7施策中 3位である。 ・本施策のかい離は 30.0点と 非常に高い。 【結論】必要性: ある程度感じている	大		
	13.5%	3位				
	13.2%	3位				

必要性のランク【結論】: 非常に感じている > かなり感じている > ある程度感じている > 比較的感じていない > あまり感じていない

A - 2 政策評価指標群の妥当性:規則 § 6 2号

適切 概ね適切 課題有

【施策の有効性を評価する上で適切か】 概ね適切
 ・児童虐待の相談率については、現段階で目標値を突破したことから、今後、見直しを行う必要があると考えている。ただ、当面は、現状維持を目標として設定したいと考えている。
 【重視すべき施策に指標が設定されているか】 概ね適切
 ・必要性大とされている7施策のうち3施策に指標が設定されている。
 ・1については、周産期・小児医療体制の充実(2-2)の周辺施策であり、指標(周産期死亡率)について重なり合う部分がある。
 ・2及び4については、ほとんどが国の施策領域であり、県レベルの政策を評価するに適切な指標設定が難しい。
 ・5については県民が施策の必要性を比較的感じていない施策領域であり、かつ、客観的な指標を立てにくい領域である。
 ・以上の点を踏まえ概ね適切としたが、なお、指標の設定及び見直しについて検討していく。

A - 3 施策群の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

評価シート(B) A-3-1「施策の有効性」から

視点	政策全体	施策3	施策6	施策7				
政策評価指標達成度	概ね有効	課題有	有効	有効				
県民満足度	課題有	課題有	課題有	概ね有効				
社会経済情勢	有効	該当なし	該当なし	有効				
全体	概ね有効	課題有	概ね有効	有効				

A 政策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

・A-1 適切
 ・A-2 概ね適切
 ・A-3 概ね有効
 ・当該政策に關し、施策群設定の妥当性(A-1)、政策評価指標群の妥当性(A-2)、施策群の有効性(A-3)を総合的に検証した結果、「概ね適切」と判断する。

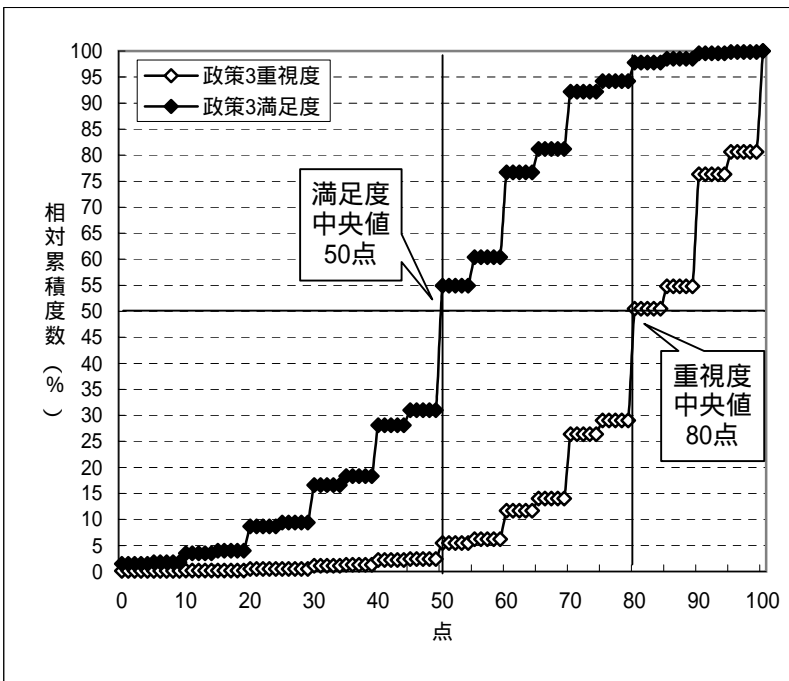
対象年度 H17

政策番号 1 - 1 - 3

政策名 子どもを安心して生み育てることができる環境づくり

(1) 一般県民満足度調査結果

高関心度 91.3 高認知度 39.3

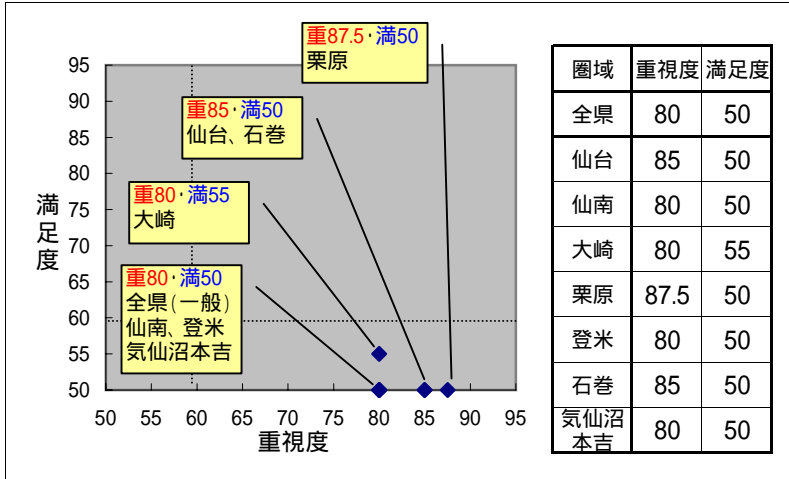


高関心度
「政策」の内容に対する関心の高さを示す数値であり、満足度調査の関心度に関する設問中「関心がある」、「ある程度関心がある」を選択した回答者の全回答者に対する割合

高認知度
「政策」の内容について知っている度合いの高さを示す数値であり、満足度調査の認知度に関する設問中「知っている」、「ある程度知っている」を選択した回答者の全回答者に対する割合

基本統計量						
全県						
項目	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
中央値	80	85	82.5	50	50	55
第1四分位	-	-	-	40	40	40
第3四分位	-	-	-	60	60	60
四分偏差	-	-	-	10	10	10

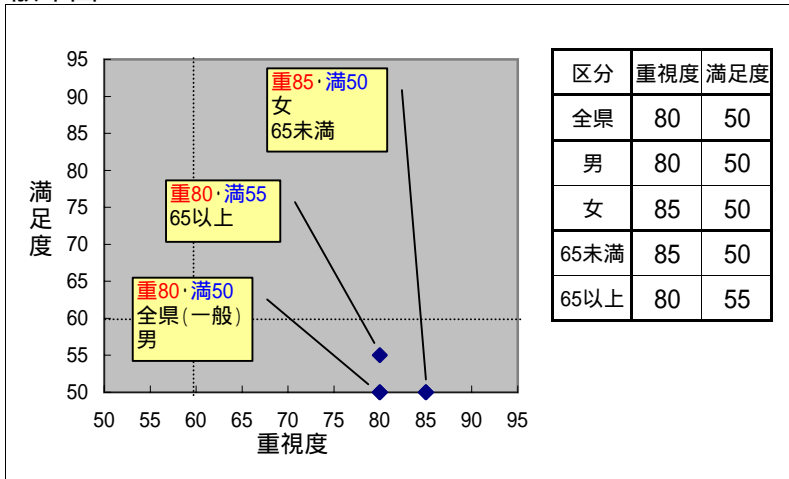
散布図



圏域別中央値(一般、市町村のみ)

圏域	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
仙台	85	90	-	50	50	-
仙南	80	90	-	50	50	-
大崎	80	85	-	55	60	-
栗原	87.5	90	-	50	50	-
登米	80	77.5	-	50	60	-
石巻	85	70	-	50	50	-
気仙沼本吉	80	90	-	50	50	-

散布図



男女別・年代別中央値(一般のみ)

区分	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
男	80	-	-	50	-	-
女	85	-	-	50	-	-
65未満	85	-	-	50	-	-
65以上	80	-	-	55	-	-

対象年度 H17

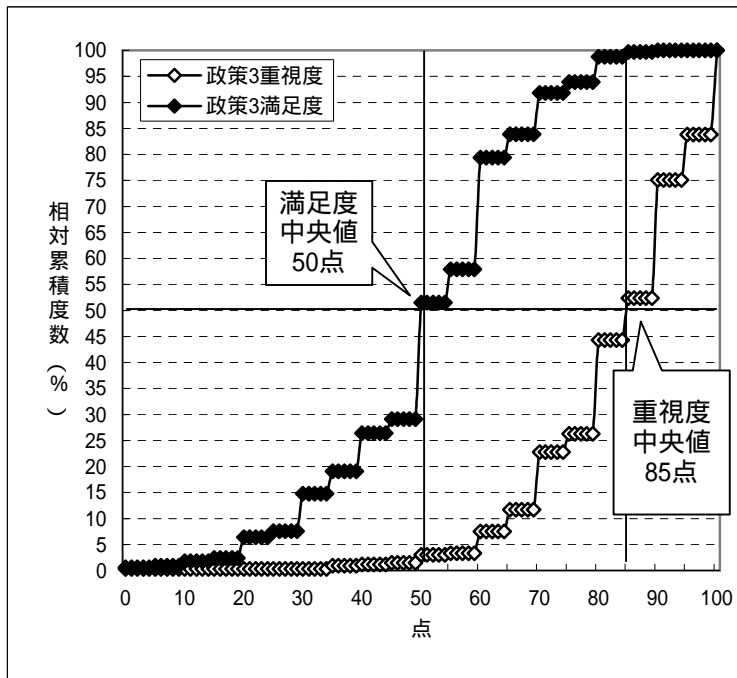
政策番号 1 - 1 - 3

政策名 子どもを安心して生み育てることができる環境づくり

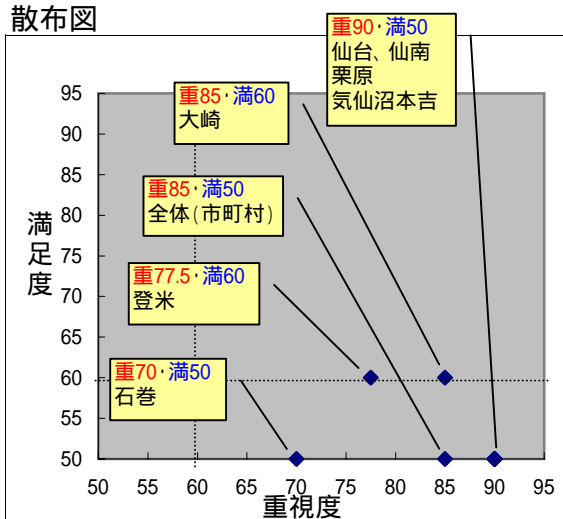
(2) 有識者(市町村職員)満足度調査結果

高関心度 94.3

高認知度 59.2



散布図

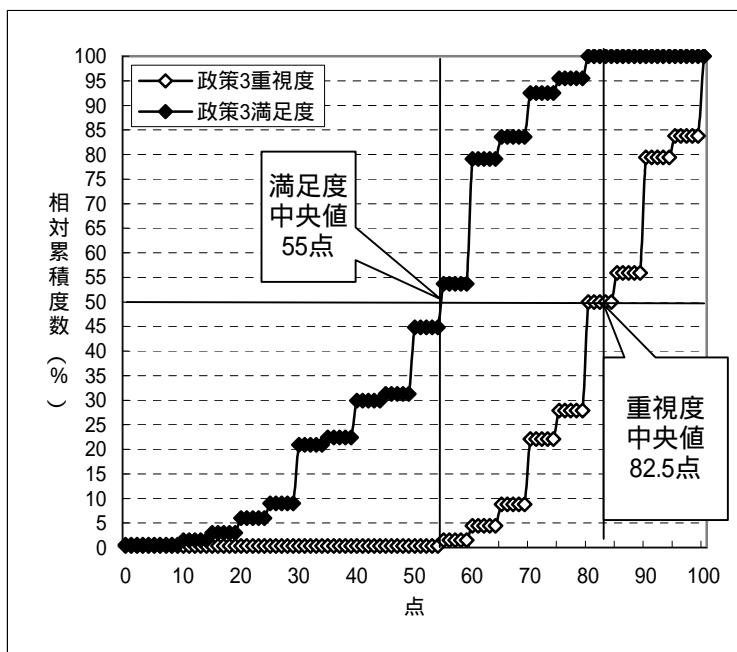


圏域	重視度	満足度	圏域	重視度	満足度
全体(市町村)	85	50	栗原	90	50
仙台	90	50	登米	77.5	60
仙南	90	50	石巻	70	50
大崎	85	60	気仙沼 本吉	90	50

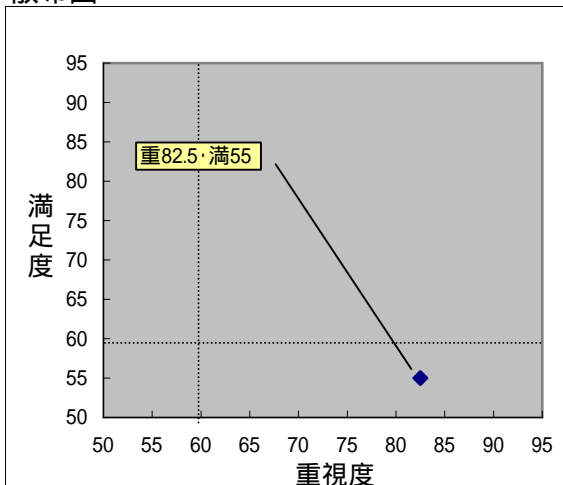
(3) 有識者(学識者)満足度調査結果

高関心度 98.5

高認知度 50



散布図



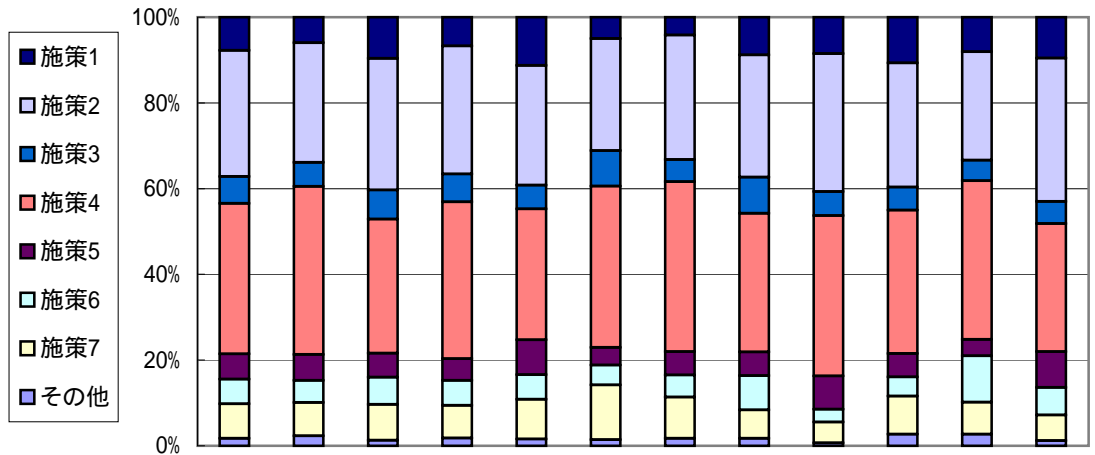
	重視度	満足度
全体(学識者)	82.5	55

対象年度 H17

政策番号 1 - 1 - 3

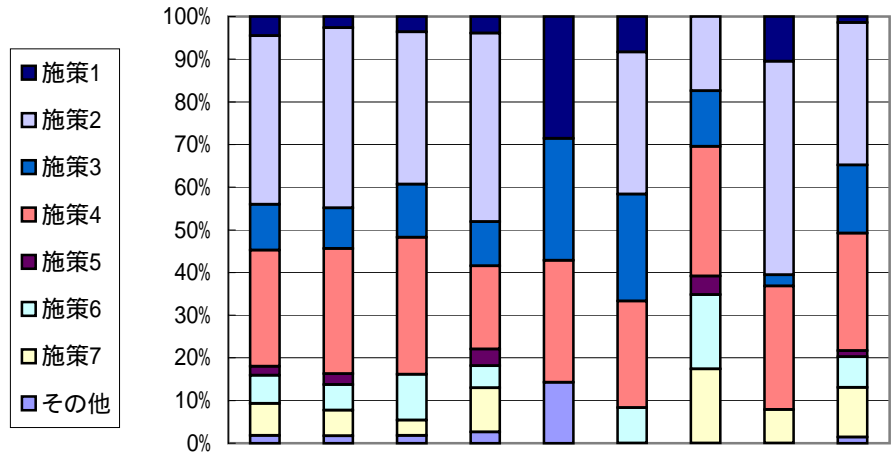
政策名 子どもを安心して生み育てることができる環境づくり

(4) 一般県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	全体	男	女	65未満	65以上	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼本吉
施策1	安心して妊娠・出産ができる母子保健の充実	7.8	6.0	9.6	6.7	11.3	5.0	4.2	8.8	8.5	10.7	8.1	9.6
施策2	出産や子育てのしやすい労働環境の整備	29.4	27.9	30.7	29.9	27.9	26.1	29.1	28.6	32.2	29.0	25.3	33.5
施策3	多様な保育サービスの充実	6.3	5.6	6.8	6.5	5.5	8.3	5.1	8.4	5.6	5.4	4.8	5.2
施策4	子育て家庭の経済的な負担の軽減	35.1	39.1	31.3	36.6	30.5	37.6	39.7	32.4	37.4	33.5	37.1	29.9
施策5	子ども連れでも安心して活動できるまちづくり	5.9	6.1	5.6	5.1	8.1	4.1	5.5	5.5	7.8	5.4	3.8	8.4
施策6	子どもと家庭を支える相談・支援体制の充実	5.7	5.1	6.4	5.8	5.8	4.6	5.1	8.0	3.0	4.5	10.8	6.4
施策7	青少年の健全育成	8.1	7.8	8.3	7.6	9.2	12.8	9.7	6.7	4.8	8.9	7.5	6.0
	その他	1.7	2.3	1.3	1.8	1.6	1.4	1.7	1.7	0.7	2.7	2.7	1.2

(5) 有識者(市町村職員・学識者)満足度結果(施策別・優先度1位割合)



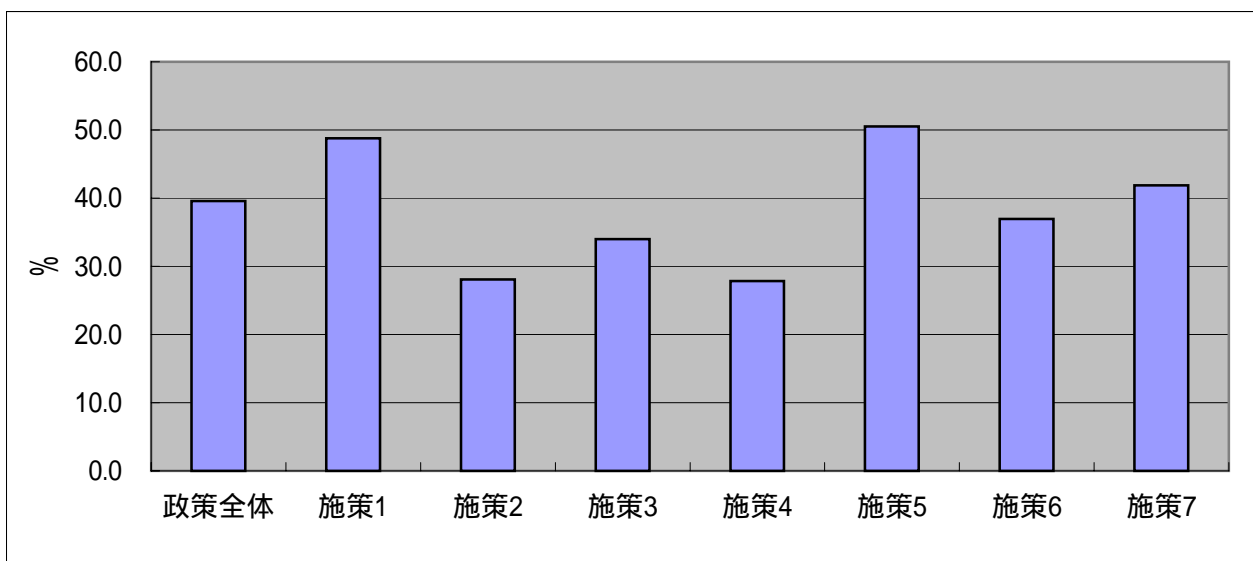
施策番号	施策名	市町村優先度								学識者優先度
		全体	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼本吉	
施策1	安心して妊娠・出産ができる母子保健の充実	4.5	2.6	3.6	3.9	28.6	8.3	0.0	10.5	1.4
施策2	出産や子育てのしやすい労働環境の整備	39.5	42.2	35.7	44.2	0.0	33.3	17.4	50.0	33.3
施策3	多様な保育サービスの充実	10.8	9.5	12.5	10.4	28.6	25.0	13.0	2.6	15.9
施策4	子育て家庭の経済的な負担の軽減	27.2	29.3	32.1	19.5	28.6	25.0	30.4	28.9	27.5
施策5	子ども連れでも安心して活動できるまちづくり	2.1	2.6	0.0	3.9	0.0	0.0	4.3	0.0	1.4
施策6	子どもと家庭を支える相談・支援体制の充実	6.6	6.0	10.7	5.2	0.0	8.3	17.4	0.0	7.2
施策7	青少年の健全育成	7.5	6.0	3.6	10.4	0.0	0.0	17.4	7.9	11.6
	その他	1.8	1.7	1.8	2.6	14.3	0.0	0.0	0.0	1.4

対象年度 H17

政策番号 1 - 1 - 3

政策名 子どもを安心して生み育てることができる環境づくり

(6) 政策・施策満足度60点以上の回答者割合(一般県民、単位:%)



施策番号	施策名	第5回							
	政策全体	39.6							
施策1	安心して妊娠・出産ができる母子保健の充実	48.8							
施策2	出産や子育てのしやすい労働環境の整備	28.1							
施策3	多様な保育サービスの充実	34.0							
施策4	子育て家庭の経済的な負担の軽減	27.8							
施策5	子ども連れでも安心して活動できるまちづくり	50.5							
施策6	子どもと家庭を支える相談・支援体制の充実	37.0							
施策7	青少年の健全育成	41.9							